

水土里ネット ながの情報



長野県土地改良事業団体連合会
土地改良のしるべ



CONTENTS

- 新年のあいさつ
- 農業農村整備オータムセミナー
- 水土里ネット女性理事意見交換会
- 国の農業農村整備事業関係予算案の概要
- 農業遺産の紹介
- 長野県からのお知らせ
- 農地整備課事業と農地中間管理事業との連携について
- 国の農業農村整備事業関係予算案の概要
- 子ども絵画展2023審査結果について



新年を迎えて

長野県土地改良事業団体連合会

会長 藤原忠彦



新年あけましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日ごろ、本会の業務運営に深いご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により被災をされた多くの皆様に、お見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

去年は、新型コロナウイルスの位置付けが5類に移行し社会活動の正常化が進む一方で、中東における紛争の激化など国際情勢の不安定な状況が続き、国内においても円安に伴うエネルギーや原材料価格の高騰が継続的な課題となりました。

また、世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや、地球環境問題への対応、海外の市場の拡大等、農業を取り巻く情勢の急激な変化を受け国は、「食料を届ける力の強化」「持続可能な農業への転換」「新技術を活用した生産性の高い農業経営」「農村、農業インフラの維持」の4つの方向性を示し、農政の根幹である食料・農業・農村基本法の見直しを進めています。こうした中、農業農村整備事業関係予算を令和6年度当初予算案で4,463億円計上するとともに、令和5年度補正予算で1,777億円確保しております。

一方、県は、令和6年度予算要求にて、補助公共事業費107億円余、県単独公共事業費2億94万円余を計上しておりますが、市町村や土地改良区からの要望にお応えできるものとなっております。

国と県の予算が安定して推移する中で、本会としても業務効率の改善と組織体制の強化を図り、水利施設の補修・更新、持続可能な農業を支える基盤整備など、会員の皆様からの負託に確実に応じられるよう役職員一丸となって事業を推進してまいります。

また、国の長期計画において、土地改良団体の運営強化の一環として男女共同参画が掲げられている中、それぞれの土地改良区では女性理事登用についてお取組いただいていることに対し、敬意を申し上げます。本会といたしましても、昨年、女性理事の就任とともに、全国で初めて都道府県土連の女性理事研修会を長野市で開催するなど、鋭意取り組んでまいりました。更に、もう一つの柱であります将来の土地改良区の運営見通しを立てるための複式簿記への移行とその活用についても相談窓口を設置するなど、男女共同参画とともに土地改良区への運営強化について支援してまいりました。

今後も、皆様からの多様なご意見をお聞きしながら、それぞれの地域の特性に沿った土地改良事業を推進してまいりますので、会員をはじめ、関係する皆様方からのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が会員の皆様にとりまして実り多き1年になりますよう心よりお祈り申しあげ、新年のあいさつといたします。

新春を迎えて

長野県知事 阿部 守一



新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。県民の皆様には、旧年中、県政の推進に対して格別の御支援、御協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年5月には、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類となり、3年以上続いた対応も新たな局面へと移行しました。医療・介護等の現場で献身的に御尽力いただいたエッセンシャルワーカーの皆様、様々な制限・制約に御協力いただいた県民・事業者の皆様、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

県では、今年度から新たな総合5か年計画『しあわせ信州創造プラン3.0 ～大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために～』をスタートしました。物価高騰や災害の激甚化・頻発化といった危機に向き合い、県民の皆様の「確かな暮らし」を守り抜いてまいります。その上で、一人ひとりの県民の皆様が経済的な豊かさだけでなく、生活の質やゆとりなども含めてしあわせを実感できる「ゆたかな社会」を長野県から創造するべく、社会の大きな変革に攻めの姿勢で挑戦してまいります。

今年、この計画を着実に推進するため、次の5つを重点テーマとして県政運営にあたってまいります。

まずは、足元の物価高への対応と経済構造の転換です。エネルギーや食料品などの物価高騰から県民生活と事業活動を守るための取組に最善を尽くします。あわせて、適正な価格転嫁や産業の生産性向上を促進するなど、継続的な賃上げを実現できる強靱な経済構造への転換を図ってまいります。

次に、少子化・人口減少対策です。子育てにかかる経済的負担の軽減や、仕事と子育ての両立支援、固定的な性別役割分担意識の解消など、女性・若者から選ばれる県づくりを進めてまいります。また、物流2024年問題をはじめ、様々な分野で顕在化・深刻化する人材不足の問題に、あらゆる施策を総動員して対応してまいります。

3点目は、気候危機対策です。昨年11月に、2030年度までに取り組む重点施策を掲げたゼロカーボン戦略ロードマップを策定しました。「一家に1台はEV」、「住宅屋根の3割に太陽光パネル設置」などの目標を県民・事業者の皆様と共有し、脱炭素社会の実現に取り組んでまいります。

4点目は、教育改革です。子どもたち一人ひとりのニーズに応じた「個別最適な学び」を長野県から実現できるよう、教育システムや多様な学びのあり方などについて、児童生徒や保護者、教育関係者等の皆様と議論を重ねています。新年度から信州型フリースクール認証制度を創設するとともに、県立高校の再編と一層の特色化、魅力化に教育委員会とともに取り組んでまいります。

5点目は、交通改革です。公共交通は、住民の日常生活や観光客の移動に欠かせないものです。社会的共通資本として、これまで以上に県が関与する仕組みへと転換し、高齢者や高校生など自家用車に頼ることができない方の移動の確保や、キャッシュレス化等による移動の利便性向上に取り組んでまいります。

こうした取組に加え、2028年の本県開催が内定した国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（愛称：信州やまなみ国スポ・全障スポ）の準備、防災・減災、県土強靱化など災害に強い県づくりなども引き続き着実に推進してまいります。

本年も、「対話と共創」を理念に、県民の皆様とともに県政を進めてまいります。どうか変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年一年の皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新春を迎えて



長野県農政部長 小林 茂樹

新年、明けましておめでとうございます。

「水土里ネット」の皆様には、日頃、県農政にお寄せいただいております御支援と御協力に厚く御礼申し上げます。

近年の農業・農村を取り巻く情勢は、これらを担う人材の高齢化や不足、少子高齢化の進行による人口減少などにより、農業従事者の減少が進んでいるため、農地・農業水利施設等の適切な管理や安定した農業生産への影響が懸念されています。農業・農村は、国民全体が利益を受ける公共財として、食料を生産する役割に加え、国土保全、水源のかん養、美しい景観の保全などの多面的機能を有しており、この大切な役割や機能を次世代に引き継いでいくためにも、今までの発想に捉われることなく、スマート農業や国土強靱化という新たな時代の要素にも取り組んでいかなければなりません。

また、近年、地球温暖化等の影響を受け、自然災害が激甚化・頻発化する中、農村の暮らしと命を守るため、国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」予算を積極的に活用して、排水機場の更新・増強、防災重点農業用ため池の豪雨・地震対策、さらには、農業水利施設の長寿命化を重点的に実施してまいります。

県では、本年度から2027年度を計画期間とする、新たな総合5か年計画である「しあわせ信州創造プラン3.0」を「確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る」を基本目標としてスタートしました。

農政部においても、「第4期長野県食と農業農村振興計画」を策定し、「人と地域が育む 未来につづく 信州の農業・農村と食」を基本目標とし、10年後の農業農村の目指す姿の実現に向け「農業」、「農村」、「食」の3つを基本方向として位置付け、総合的かつ計画的に施策を実施してまいります。

また、その実行計画である「長野県農業農村整備計画（第9次長野県土地改良長期計画）」も策定し、時代を担う産地を支える基盤整備を進めるほか、安全安心で持続可能な農村基盤づくり、農的つながり人口の創出や拡大による農村づくりといった施策を展開してまいります。

これらの計画につきましては、関係団体等の参画と協働を基本姿勢とし、県民の皆様と一体となって推進してまいります。

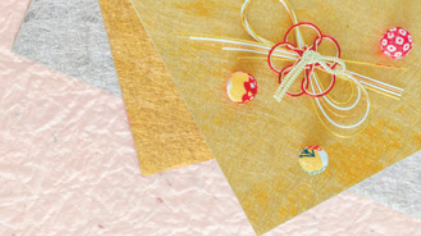
さて、国の「第5次男女共同参画基本計画」では2025年度を目標年度とし、土地改良区及び土地改良区連合の理事に占める女性の割合を10%にすることとしております。今年度がその中間年度となっており、県としましても、これまで「長野県土地改良区運営基盤強化協議会」の活動において、研修会等を通じて男女共同参画について皆様の御理解を深めていただいた結果、県内土地改良区においても女性理事の登用が進んでおります。引き続き、構成員である国、長野県土地改良事業団体連合会と連携しながら、土地改良区等における男女共同参画の取組を一層促進してまいりますので、女性理事登用が図られますよう皆様の御理解・御協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして、実り多き良き年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階俊博



令和6年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

本年元日に石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地域を中心に甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会も被災地域の1日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、関係各位におかれましてもご支援をお願いします。

去年は、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。

我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4,463億円を確保することができました。令和5年度補正予算を含めると昨年度を上回る6,240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第五次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お2人の活動の支援をお願いいたします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。

男女ともに一致団結して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、全国の皆様が日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げまして、私の新年の御挨拶といたします。

インターンシップ開催

農業農村整備オートムセミナーを実施しました!

令和5年11月27日～28日、長野県農政部農地整備課、長野地域振興局農地整備課協力のもと、農業農村整備に興味のある学生を対象に、オートムセミナーを開催しました!



- 県営中山間総合整備事業 信州高山地区 工事監督業務の担当者より事業概要や安全管理についての説明を受け、農業農村整備事業についての意見交換会を行いました。

- 長野県土地改良事業団体連合会の業務紹介
- TREND-POINT を使った縦横断の作成
- CAD を使った計画図作成

参加した学生の声

- ・ 長野県内でも、地域によって環境や風土が全く異なり、地域の特色に合わせた整備が必要になることがわかった。CAD操作について学びたいと考えていたので、勉強になった。



女性理事研修 都道府県水土里ネット女性理事意見交換会を開催しました

令和5年11月15日～16日、本会は長野市のホテル国際21において全国土地改良事業団体連合会と共催で、全国で初となる都道府県土連の女性理事を対象にした意見交換会を開催しました。

全国から関係者約50名が参加し、土地改良の抱える現状の課題と今後の展開について、活発な意見交換が行われました。



▲意見交換会の様子

2日目 現地視察 (左: 信州高山ワイナリー (高山村)、右: 岡木農園 (須坂市))



参加者は、実際にワインやシャインマスカット等を試食しながら担当者の説明を受けました。

大座法師池

管理者：長野市浅河原土地改良区・長野市観光振興課

大男の足跡伝説

土地改良区の概要	所在地	長野市大字鶴賀字苗間平1613 長野市役所第二庁舎内
	関係市町村	長野市
	設立年月日	昭和27年6月11日
	受益面積	25 ha (R5.4.1 現在)
	組合員	217人 (R5.4.1 現在)

長野市浅河原土地改良区の受益地は、飯縄山に源を発する浅川が、善光寺北部を形成する平坦な扇状地で、旧若槻村東條、徳間、稲田、檀田及び旧長野市上松、三輪、吉田並びに旧浅川村東條の一带です。かつての浅河原は平坦な耕地に恵まれる一方、水源である浅川の流量が少なく度々深刻な水不足を経験してきました。しかし、1563年築造の大池をはじめ6つのため池が飯縄山麓台地上に築造され、水不足が解消されました。大座法師池は現在飯綱高原の主要な観光地の一つとなっています。

大座法師池の概要



▲大座法師池と飯縄山

だいだらぼうの伝説

大昔「だいだらぼう」というとてつもない大男が飯縄山を海に投げこもうと思い、山に手をかけ顔を真っ赤にして足を踏ん張ったとたん、足が大地にめり込んで大きな足跡が出来ました。この足跡に水が溜まり、出来たのが大座法師池であるという逸話が残されています。



◀ ため池の上を滑走するジップライン。国内では数少ないアクティビティで、年間約1万人が利用している

森の駅「Daizahoushi」

自然体験リゾート「ナガノフォレストビレッジ」

大座法師池の周辺「ナガノフォレストビレッジ」では、BBQ、キャンプ、ペダルボート、アスレチックといった様々な自然体験が出来る他、令和4年4月からは大座法師池を一望できるカフェや新鮮な朝採れ高原野菜が並ぶマルシェなどを備えた、森の駅「Daizahoushi」がオープンしました。四季折々の姿を見せる大座法師池に季節を問わず多くの観光客が訪れています。



長野市浅河原土地改良区の今井事務局長にお話を伺いました

○管理について

大座法師池は長野市に貸出を行っており、観光地として有名になっています。観光利用の工事前後に長野市観光振興課の担当者と共に取水口の点検を行う等、必要に応じて長野市と連携し管理が行われています。

配水については、大座法師池を含む6つのため池から1度浅川へ放流し、再度浅川から各堰に取水を行っています。浅川は急傾斜で、放水量によっては水不足になりやすいので、各ため池に設置された長野県のため池監視システムを活用し、水位の変化を確認しながら放水量の調整を行っています。また、令和元年の台風19号災害時に浅川下流域でも大水害が発生したことを受け、9月以降は各ため池の水位を下げる低水位管理を行い、災害に備えています。

○今後の課題・展望について

今後も6つのため池と水路を適切に管理し、浅川の特性を踏まえながら受益地内で農業を営んでいる農家さんに必要な用水を安定供給していきたいと考えています。

一方で、設立当初とは時代も変わり、改良区設立当初は約350haあった農地も、急速な市街化により現在は約20haほどとなっています。農業利用はもちろんですが、低水管理といった治水・災害対策、特に大座法師池については観光面での利用といった多様な役割を担うため、農業と治水と観光とのバランスを上手に取りながら今後も維持管理していきたいです。

◆国営伊那西部地区内で初めて関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰を受賞

国営伊那西部開発事業地区内でりんご高密度栽培に取り組む白鳥勲さん(伊那市西箕輪)が令和5年度の関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰を受賞しました。

同表彰は、農業基盤整備事業を実施した地区等において、農業の生産技術の向上と経営改善のための創意工夫を意欲的に行い、他の模範となり、事業や営農の推進に功績のあった者を表彰する制度で、主に国営事業地区内の営農者を中心に県が推薦しています。

白鳥さんは、りんごを中心に約5haを経営する果樹農家で、高密度栽培の導入により単収・品質の向上、労働時間の削減に大きく成果を上げています。

りんご高密度栽培は、根域が比較的浅い栽培方法であることから、かん水が品質・収量に大きく影響し、農業農村整備事業により用水が整備された当地区の特長を最大限に活かした栽培方法と考えられます。



◆令和5年度長野県土地改良区運営基盤強化研修会を開催

長野県土地改良区運営基盤強化協議会主催により、土地改良区等の理事及び職員を対象に、男女共同参画の推進と適正な土地改良区運営を目的とした研修会を12月19日(火)長野会場、20日(水)松本会場で開催し、両会場合わせ約50改良区の皆様にご参加いただきました。

研修会は4部構成で、前半は県内女性理事登用の先進事例紹介や、関東農政局土地改良管理課の畠山氏から土地改良区におけるコンプライアンスの推進についてご講演いただきました。後半は長野県土地改良事業団体連合会様より土地改良区の安全管理についてご講演をいただき、水門の自動化及び省力化についての研修では機材の実物を用いての説明を行いました。

当協議会では今後も土地改良区における様々な課題等へ対応すべく研修会を継続的に開催していく予定です。国、県、県土連が揃う場でもありますので、積極的にご参加いただき日頃の疑問等解決する機会としてもご活用ください。



「信州棚田魅力発見フェア」を銀座NAGANOで開催します

当フェアは銀座NAGANO 1階ショップスペースでお米や普段は銀座NAGANOの店頭には並ばない加工品等も販売いたします。

また、2月25日(土)には5階会場で棚田オーナー制度の個別説明会も実施いたします。フェアへの申込は不要ですので、お気軽にお越しください。

【イベント期間】

2024年2月10日(土)～2月25日(日)

※銀座NAGANO営業時間内にお越しください。

【申込等】

不要(棚田オーナー個別説明会への申し込みも不要です。)

【問合せ先】

長野県農政部農整備課 農地・水保全係
TEL:026-235-7241

長野県白馬村 青鬼の棚田



1階 ショップスペース

山に囲まれた長野県。

山からの清らかな水と、昼夜の寒暖差で育まれた

お米をはじめとする美味しいグルメを

銀座NAGANOに集めました。

ぜひご賞味ください！

売上金の一部は棚田の保全に充てられます。

自然いっぱいの長野県！棚田で米づくり体験しませんか？

2024年 棚田オーナー制度個別説明会

2/24 SAT.

時間 / 10:30 ~ 17:00
場所 / 銀座NAGANO 5階

事前予約不要

参加無料

おひとり参加大歓迎！

個別相談形式のため、ご都合のいい時間帯にお越しください。棚田保全団体の担当者から、棚田オーナー制度について詳しくご説明します。

参加棚田

山室の棚田 (伊那市)
小谷村棚田群 (小谷村)
八重堀 (長野市)



棚田オーナー制度とは…

都市に住む人がお金を出して水田を借り、農作業を楽しんだり、

収穫したお米を受けとったりできる仕組みです。

普段の維持活動は地域の保全団体が行います。

○農地中間管理事業と連携した農地整備事業の推進

農業競争力の強化を図るため、担い手への農地集積や集約化を効率的に進めるには、農地整備事業と農地中間管理事業との連携が極めて重要です。両事業を連携することで、地区内での農地集積率や集約化率が高まり、国からの助成により農家の負担軽減を図るメリットがあります。

◇農地中間管理機構関連農地整備事業（県営）

- ☆実施要件
 - ・受益面積10ha以上（中山間地域は5ha以上）であること
 - ・事業対象農地の全てについて、農地中間管理権（15年以上）が設定されていること
 - ・事業対象農地の8割以上を担い手に集団化すること など
- ☆事業内容等 田や畑の区画整理など
- ☆事業費負担 国62.5%、県27.5%、市町村10%、**農家負担ゼロ**
- ☆実施地区 **小野沢**（朝日村、R1～）、**綿内東町**（長野市、R1～）、**馬取山田**（軽井沢町、R4～）

◇農業競争力強化農地整備事業・水利施設等保全高度化事業（県営）

- ☆実施要件
 - ・受益面積20ha以上（中山間地域は10ha以上）であること
 - ・担い手の農地集積率又は集約化率が一定要件以上増加すること など
- ☆事業内容等 田や畑の区画整理など
- ☆事業費負担 国50%（55%）、県27.5%、市町村10%、農家12.5%（7.5%）（）内は中山間地域
- ☆実施地区 **祢津御堂**（東御市、H27～）、**諏訪平**（諏訪市、R4～）、**小六**（富士見町、R1～）、**会染西部**（池田町・松川村、H30～）、**北城南部**（白馬村、H30～） 他

○農家負担金の軽減等のメリット（R5年度現在）

1 中心経営体農地集積促進事業（促進費）

- ・事業実施後（前倒し交付可）の農地集積率に応じて事業費の最大12.5%を交付します。

中心経営体集積率	助成割合	集約化加算
85%以上	8.5%	+ 4.0%（計 12.5%）
75～85%	7.5%	+ 3.0%（計 10.5%）
65～75%	6.5%	+ 2.0%（計 8.5%）
55～65%	5.5%	+ 1.0%（計 6.5%）

2 地域集積協力金交付事業

- ・担い手への農地集積に取り組む地域を支援します。

区分	農地バンクの活用率（中間管理権設定率）		交付単価
	一般地域	中山間地域	
1	20%超 40%以下	4%超 15%以下	1.0万円/10a
2	40%超 70%以下	15%超 30%以下	1.6万円/10a
3	70%超 80%以下	30%超 50%以下	2.2万円/10a
4	80%超	50%超 80%以下	2.8万円/10a
5	—	80%超	3.4万円/10a

地域集積協力金の主な活用用途の事例（地域の話し合いにより自ら決定する仕組み）

農業機械関係（草刈機の購入等）、土地改良事業の賦課金、土地改良事業借入金の利息、新規作物導入費、事業委員会等の活動費、鳥獣害対策費 等

（地域集積協力金交付事業の詳細は、市町村又は県農業農村支援センターにお問い合わせください。）

*農地中間管理事業の情報は、長野県農業開発公社のホームページでご覧になれます。

<https://www.n-nouchi.net/>

長野県農業開発公社

検索

◆ 農業農村整備事業関係予算6,240億円 (令和5年度補正と合わせて)

政府は昨年12月に令和5年度補正予算案と令和6年度当初予算案を閣議決定した。
 農業農村整備事業関係予算は、令和6年度当初予算では4,463億円。これに令和5年度補正予算の1,777億円を加え、6,240億円が確保された

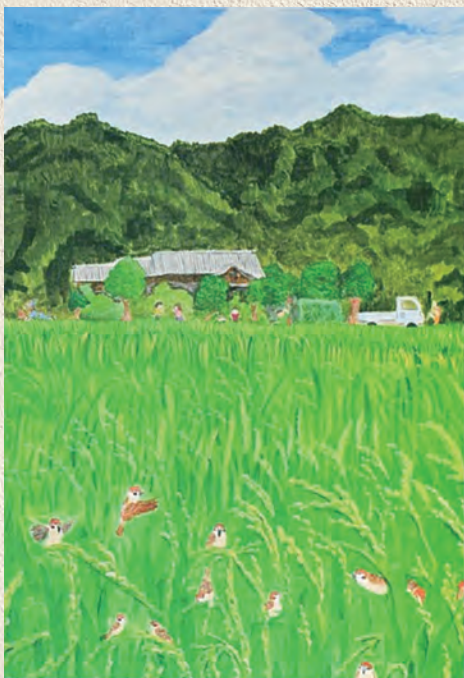
農業農村整備事業関係予算概算要求の概要

(単位：億円)

事 項	令和5年度 予 算 額	令和6年度 当 初 予 算 A	令和5年度 補 正 予 算 B	合計 A+B
農業農村整備事業（公共）	3,323	3,326 (100.1%)	1,777	5,103
農業農村整備関連事業（非公共） 〔農地耕作条件改善事業 畑作等促進整備事業 農業水路等長寿命化・防災・減災事業 農村漁村振興交付金〕	543	548 (100.9%)	—	548 (120.5%)
農山漁村地域整備交付金（公共） （農業農村整備分）	591	588 (99.6%)	—	588
計	4,457	4,463 (100.1%)	1,777	6,240

(注) 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。
 2. 下段（ ）書きは令和5年度当初予算額との比率である。

「未来へつなごう!ふるさとの水土里」子ども絵画展2023 審査結果



全国土地改良事業団体連合会と都道府県土地改良事業団体連合会が開催した「未来へつなごう!ふるさとの水土里」子ども絵画展2023は、全国から約3,000点の作品が寄せられ、農林水産大臣賞等6点、協賛企業・団体賞25点、地域団体賞52点、入選142点、佳作175点が選ばれました。

本会を通じて応募した作品の中から、協賛企業賞1点、入選3点、佳作3点が選ばれました。おめでとうございます!

来年度もたくさんのご応募お待ちしております。

やまびこ賞（協賛企業賞）
 上田市立西小学校 6年 古澤さん
 「稲の風景・遊ぶ子供とスズメたち」



表紙写真紹介 ————— 沼の池（飯山市旭）

元々は火山灰に覆われた窪地に水がたまった天然の池でしたが、江戸時代に飯山藩の新田開発により、農業用ため池となりました。神秘的な景色は、日本画家・東山魁夷の作品「静映」のモデルとしても知られ、「希望湖（のぞみこ）」とも呼ばれています。池の周囲は「信越トレイル」のコースとなっており、ミスバショウの群生地・ブナの巨木など四季を通じて自然を楽しむことができます。

文：信州の農業遺産魅力ガイドより（長野県農政部農地整備課発行）



みどり
水土里ネットながの
土地改良のしるべ

発行：令和6年2月（年4回発行）
発行所：長野県土地改良事業団体連合会
〒380-0838 長野市大字南長野字宮東452番地の1
TEL026-233-4281 <http://www.nag-doren.or.jp>
土地改良のしるべ編集人：白鳥 公晴